

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民の定住意識や生活環境に対する評価、市政の各分野についての意向などを把握し、今後の行政施策の参考資料とするものである。

2. 調査の内容

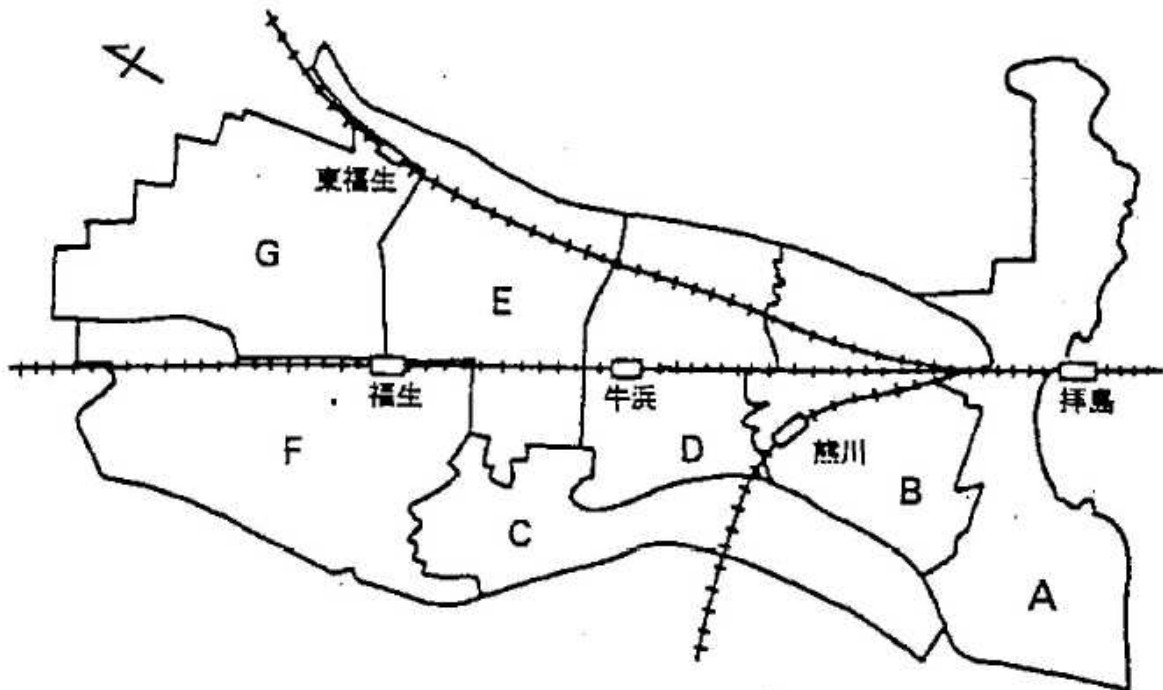
- | | |
|----------|------------------|
| (1) 調査地域 | 福生市 |
| (2) 調査対象 | 市内在住の満20歳以上の個人 |
| (3) 標本数 | 2,400 |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送法 |
| (6) 調査時期 | 平成30年7月17日～8月10日 |
| (7) 調査機関 | 株式会社アストジェイ |

3. 調査結果

- | | |
|-----------|-------|
| (1) 標本数 | 2,400 |
| (2) 有効回収数 | 1,080 |
| (3) 有効回収率 | 45.0% |

4. ブロックの構成

(1) 地域特性を把握するため、平成27年調査の分類にしたがい、町会（地域）区分を下記7地域に分類した。



区域	町会（地域）名
Aブロック	福生熊川住宅自治会、南町会、内出町会、武蔵野町会、福東町会
Bブロック	鍋ヶ谷戸第一町会、鍋ヶ谷戸第二町会、玉川台町会、富士見台町会、福栄町会
Cブロック	福生団地自治会、志茂第一町会、南田園一丁目町会、南田園二丁目町会、南田園三丁目町会
Dブロック	熊川牛浜町会、牛浜第一町会、牛浜第二町会
Eブロック	志茂第二町会、本町第七町会、原ヶ谷戸町会
Fブロック	本町第一町会、本町町会、本町中央町会、本町第六町会、永田町会、長沢町会、加美町会
Gブロック	加美平住宅自治会、本町第八第一町内会、本町第八第二町内会、武蔵野台一丁目町会

(2) 地域別の回収結果

区域	区域別対象者	標本数	有効回収数	有効回収率
全体	45,696	2,400	1,080	45.0%
Aブロック	6,691	352	152	43.2%
Bブロック	5,398	283	137	48.4%
Cブロック	5,509	290	143	49.3%
Dブロック	4,803	252	131	52.0%
Eブロック	6,927	364	147	40.4%
Fブロック	7,035	369	151	40.9%
Gブロック	9,333	490	219	44.7%

5. この報告書の見方

本報告書を読む際に、次の点に留意してください。

- (1) 図表の中のnとは回答者総数（または該当質問の該当者数）を表している。
- (2) 比率はnを100%として百分比で算出し、小数点第2位を四捨五入して示した（ただし、過年度推移の図表のうち、平成18年度以前の結果については小数点第1位を四捨五入）。このため、設問のすべての選択肢の比率の合計が必ずしも100%にならない場合がある。
- (3) この調査は、平成15年度調査以前は対面調査で実施していたため、過年度推移の図表では選択肢中の「無回答」は存在せず、また、「わからない」の選択肢を図表中で「無回答」として示している。
- (4) 複数回答の設問では、設問のすべての選択肢の比率の合計が100%を上回ることがある。
- (5) 本文や図表中の選択肢表記では、場合によっては語句を短縮・省略化している。
- (6) クロス集計では、属性によってはnが少ないものがあり、この場合、統計的誤差が大きくなるので注意が必要である。そのため、比率の見かけ上顕著に大きな値を示していても、分析の文章ではふれていない場合がある。
- (7) この調査の標本誤差は次の式によって得られる。

$$b = 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団の人数
 n = 比率算出の基数(サンプル数)
 p = 回答比率

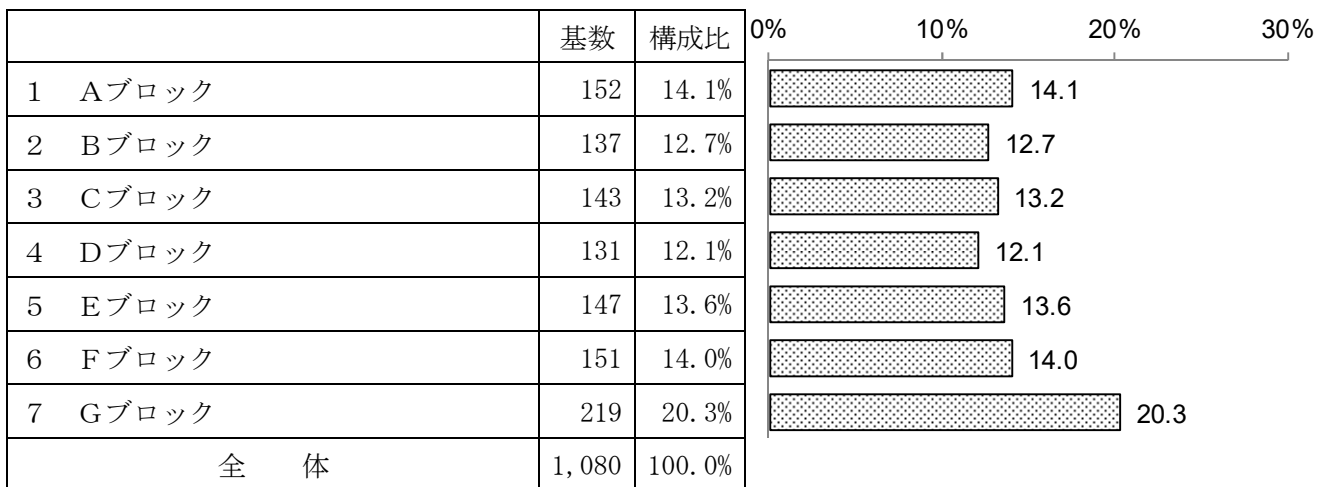
次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率 (p) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
(全体) 1,080 人	±2.58%	±3.44%	±3.94%	±4.22%	±4.30%
900	±2.83%	±3.77%	±4.32%	±4.62%	±4.71%
750	±3.10%	±4.13%	±4.73%	±5.06%	±5.16%
500	±3.79%	±5.06%	±5.80%	±6.20%	±6.32%
400	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
300	±4.90%	±6.53%	±7.48%	±8.00%	±8.16%
200	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%
100	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

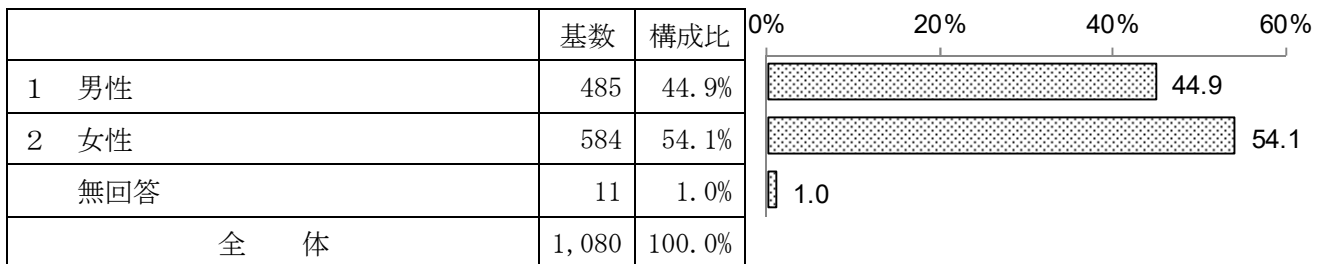
※上表は $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として算出している。この表の計算式の信頼度は95%である。

6. 標本特性

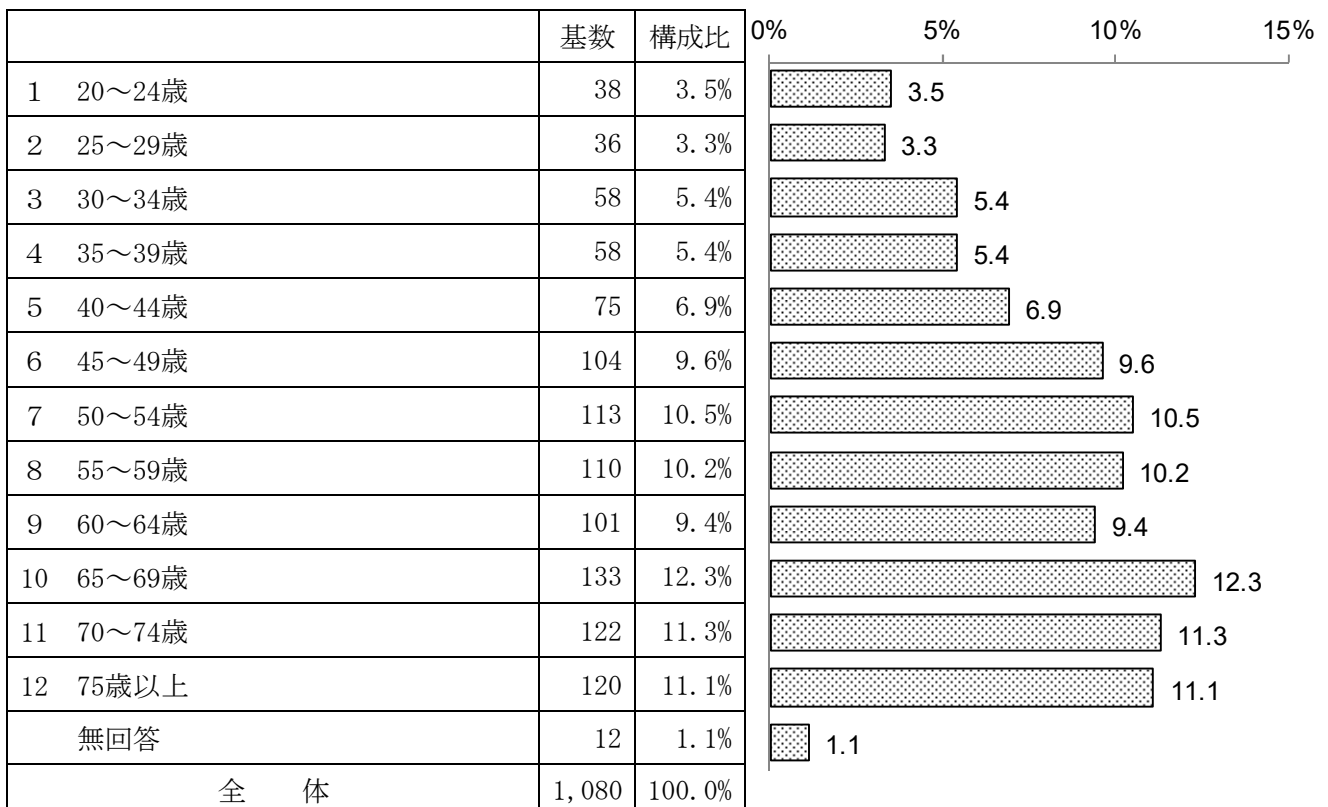
(1) 居住地域



(2) F1 性別



(3) F2 年齢



(4) 性別・年齢 (F 1・F 2)

	全 体		男 性		女 性		性別無回答	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
20～29歳	74	6.9%	35	7.2%	39	6.7%	0	0.0%
30～39歳	116	10.7%	52	10.7%	64	11.0%	0	0.0%
40～49歳	179	16.6%	73	15.1%	106	18.2%	0	0.0%
50～59歳	223	20.6%	98	20.2%	125	21.4%	0	0.0%
60～69歳	234	21.7%	116	23.9%	118	20.2%	0	0.0%
70歳以上	242	22.4%	111	22.9%	131	22.4%	0	0.0%
年齢無回答	12	1.1%	0	0.0%	1	0.2%	11	100.0%
計	1,080	100.0%	485	100.0%	584	100.0%	11	100.0%

(5) F 3 本人の職業

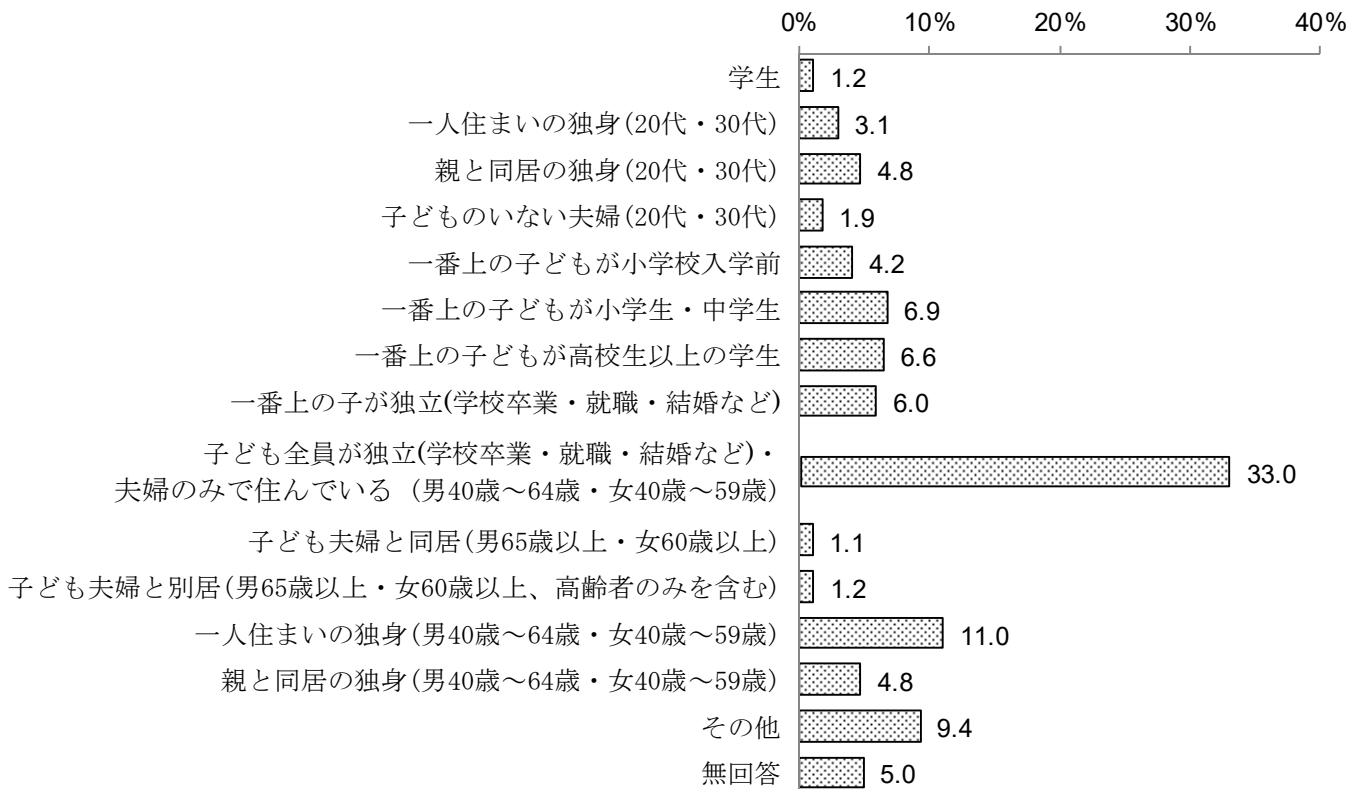
	基数	構成比
1 自営業主	83	7.7%
2 家業従事 (家業手伝い)	9	0.8%
3 事務・技術系勤め人	261	24.2%
4 労務系勤め人	116	10.7%
5 学生	14	1.3%
6 パート・アルバイト	206	19.1%
7 専業主婦・主夫	167	15.5%
8 その他の無職	209	19.4%
無回答	15	1.4%
全 体	1,080	100.0%

(6) F 3-1 通勤・通学地

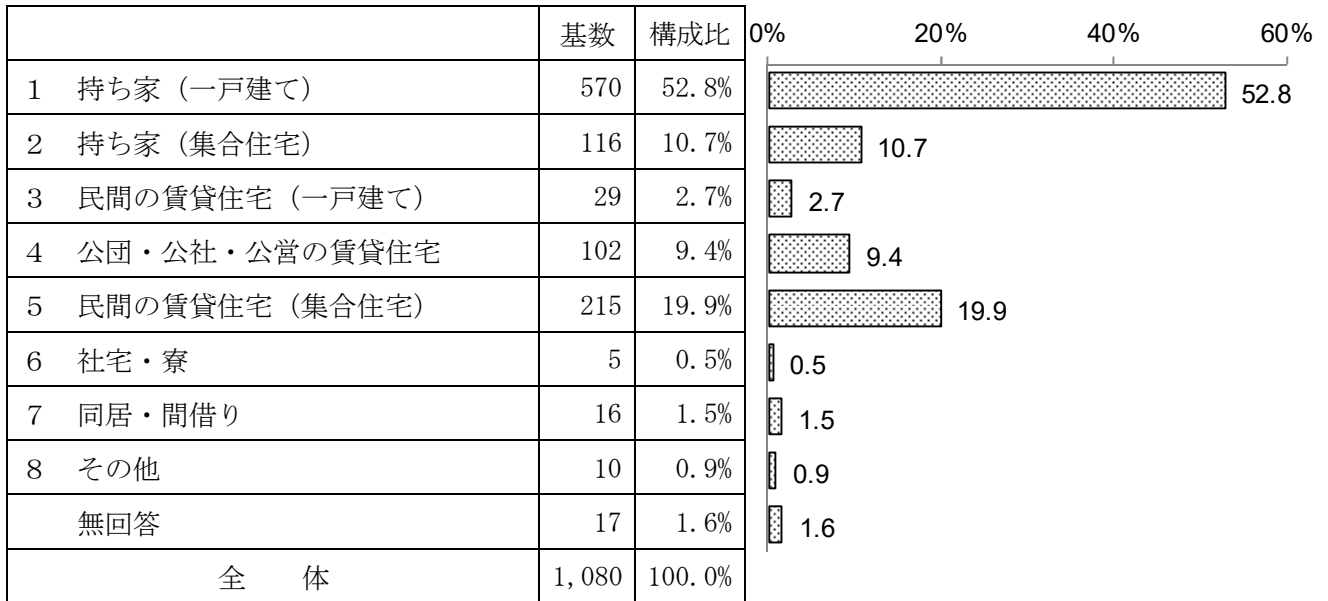
	基数	構成比
1 福生市内	204	29.6%
2 都内23区	87	12.6%
3 福生市外 (都内23区以外の市町村)	355	51.5%
4 東京都外	39	5.7%
無回答	4	0.6%
全 体	689	100.0%

(7) F4 ライフステージ

	基数	構成比			基数	構成比
1 学生	13	1.2%				
2 一人住まいの独身 (20代・30代)	33	3.1%	⇒	独身期	98	9.1%
3 親と同居の独身 (20代・30代)	52	4.8%				
4 子どものいない夫婦 (20代・30代)	20	1.9%	⇒	家族形成期	65	6.0%
5 一番上の子どもが小学校入学前	45	4.2%				
6 一番上の子どもが小学生・中学生	74	6.9%	⇒	家族成長前期	74	6.9%
7 一番上の子どもが高校生以上の学生	71	6.6%	⇒	家族成長後期	71	6.6%
8 一番上の子が独立 (学校卒業・就職・結婚など)	65	6.0%				
9 子ども全員が独立 (学校卒業・就職・結婚など)・ 夫婦のみで住んでいる (男40歳～64歳・女40歳～59歳)	356	33.0%	⇒	家族成熟期	421	39.0%
10 子ども夫婦と同居 (男65歳以上・女60歳以上)	12	1.1%	⇒	高齢期	12	1.1%
11 子ども夫婦と別居 (男65歳以上・ 女60歳以上、高齢者のみを含む)	13	1.2%	⇒	高齢者世帯	13	1.2%
12 一人住まいの独身 (男40歳～64歳・女40歳～59歳)	119	11.0%				
13 親と同居の独身 (男40歳～64歳・女40歳～59歳)	52	4.8%	⇒	その他	272	25.2%
14 その他	101	9.4%				
無回答	54	5.0%	⇒	無回答	54	5.0%
全 体	1,080	100.0%			1,080	100.0%



(8) F5 住居形態



(9) F6 地域コミュニティ（複数回答）

